

学習指導案(中学校)参考例

〇〇科学習指導案

〇ここで示したものは、参考例の一つである。

〇移行措置のある教科及び先行実施をする教科の指導案については、現行の考え方で作成してもよい。

令和 年 月 日 () 第 校時
第 学年 組 指導者 〇〇 〇〇

1 単元名(小単元名、または題材名)

〇国語科は「単元名」、「教材名」を併記する場合もある。音楽、美術等は「題材名」とする場合が多い。

2 単元の目標(小単元の目標、または題材の目標)

- (1) 〇この文末表現は、中学校理科の例である。 ～進んで関わり、～しようとする。(〇〇への関心・意欲・態度)
(2) 〇観点については、新学習指導要領全面実施から、3観点に変更される。 ～することができる。(〇〇な思考・表現)
(3) 〇観点については、新学習指導要領全面実施から、3観点に変更される。 ～することができる。(〇〇の技能)
(4) 〇観点については、新学習指導要領全面実施から、3観点に変更される。 ～理解し、知識を身に付ける。(〇〇についての知識・理解)

- ①単元の目標を評価の観点別に示したり、全ての評価の観点を含んだ文章で示したりする。
②教科等により、目標の文末表現が異なっているため、県教委や国立教育政策研究所の資料を参考にする。
③「国語科」の場合は「国語への関心・意欲・態度」「言語についての知識・理解・技能」の2観点と、「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」の中から、単元で重点的に指導する1観点を明記する(複合的に2観点入る場合もある)。他教科等においても、教科の特性を踏まえ、評価の観点の全て、あるいは一部を取り上げる。
④「英語科」の場合は、各学校で作成している「CAN-DOリスト」の形での「学習到達目標」との関連

3 単元について(小単元または題材について)

〇「2 単元の目標」の後に、「3 単元の評価規準」を設定することも考えられる。
〇教科の特性を踏まえて、教材の系統性や他教科との関連を(1)、(2)、(3)のいずれかに示すことも考えられる。

(1) 教材観

- ①学習指導要領の内容を踏まえ、本単元が、学習指導要領の目標及び内容のうち、どの目標及び内容を受けて構成しているのかを記述する。そして本単元で押さえるべき指導事項について学習内容・学習活動を明らかにする。
②本教材がどんな価値や本質をもった教材であるかを把握して記述する。

(2) 生徒の実態

〇単元の指導に直結しない実態(「明るい学級」「算数が好きな子が多い」など)は記述せずに、下記①～③のとおり、本単元を進めていく前提としての実態を分析的に記述する。したがって、アンケート調査をする際は「学級の状態」や「教科の好き嫌い」といった教科に対する情意面などではなく、単元の指導に関わる内容を問うことが望まれる。

- ①単元に関わる生徒の実態を調査し、その結果を分析して記述する。
②生徒の実態は、「学習の定着度」「学習スタイル」「興味・関心」「学習スピード」「生活経験」など複数の観点から把握することや、学校課題(研究主題)に関わる視点から把握することなどが考えられる。
③実態調査の分析・考察については、成果や課題等を記述し、「(3)指導観」における単元の目標を達成するための指導・手立てや、個を生かす指導につなげる。

(3) 指導観

- ①「2 単元の目標」や「(1)教材観」、「(2)生徒の実態」を踏まえ、目標を達成するための指導・手立て等について記述する。
②基礎的・基本的な知識及び技能の習得と、それらを活用して思考力、判断力、表現力等を育成することを意識した指導を具体的に記述することも考えられる。
③目標を達成するために効果的な言語活動を示したり、教材・教具、資料、活動形態、個を生かす支援など、単元において指導に生かせる手立てや工夫等について記述したりする。
④当該単元において身に付けさせたい力を明確にし、その指導事項のために最適な言語活動はどのようなものであるかを考える。そして教科のねらいの達成のために、単元全体を見通して、適切どころにその言語活動を位置付けるようにする。

4 人権教育との関連

○単元の目標、学習内容と本校における人権教育の「育てたい資質・能力等」（知性・判断力・感受性・技能・実践力）との関わりについて記述する。

5 学校課題との関連（研究学校等においては、研究主題との関連）

- ①学校課題（研究主題）との関連がある場合には、学校課題（研究主題）に迫るための授業の組立や指導の重点などを単元（小単元、又は題材）レベルで記述する。その際、研究の内容に即して記述することが大切である。
- ②教科ごとの課題（研究テーマ）がある場合は、それぞれの課題との関連で記述することも考えられる。

6 単元の指導と評価の計画（○時間扱い）

- ①年間指導計画の下に、単元の目標（ねらい）を踏まえて単元全体を見通し、指導順序と時間数を明記するとともに、本時の位置付けを明確にする。目標（ねらい）、主な学習活動、指導上の留意点（又は教師の支援）、評価規準等について記述する。特に、本時の展開との整合性を図るようにする。
- ②単位時間ごとの目標（ねらい）、主な学習活動、指導上の留意点（又は教師の支援）、評価規準等について記述する。
- ③教科の特性に合わせて、県教委や国立教育政策研究所の資料を参考にする。

【単元の指導と評価の計画（○時間扱い）の例】

○学習内容と学習活動を別枠で示したり、□で囲んだりして明確に分けて記述することも考えられる。

○「教師の指導及び手立て」とし、この欄に「努力を要する状況と判断される生徒」への指導の手立てを記述することも考えられる。

○学習活動に即した評価規準
○ここに示した評価規準をそのまま「(6)展開」の評価規準として記述する。

○ここに示した手立てについては、「(6)展開」の「評価(評価方法)」や「指導上の留意点」の欄に記述する。

時	目標 (ねらい)	主な学習内容・ 学習活動	指導上の留意点	評価の重点				評価規準 (評価方法)	十分満足できる状況 (評価方法)	努力を要する状況と判断される生徒への指導の手立て
				関 意 態	思 判	技 表	知 理			
1 本 時	○本時の目標（ねらい）を記述する。	○本時の主な学習内容・学習活動を記述する。	○生徒の活動を促進させるための留意点等を記述する。	○	○	○	○	○評価規準を記述する。 ○評価方法も併せて（ ）に記述する。	○評価規準からより高まり深まった状況を実現していると判断される生徒の姿の例を記述する。 (キーワードによる記述もある。)	○予想される状況とその手立てを簡潔に記述する。
2										
3										

○評価の観点については、新学習指導要領に沿った3つの観点を目にした指導案を作成し、実施する場合でも、評価の観点は、現行の4観点に読み替えて行うこととする。

○「(6)展開」の評価の欄に載せる場合は、そのまま記述する。

○「目標」、「主な学習内容・学習活動」、「指導上の留意点」、「評価の重点」、「評価規準」、「十分満足できる状況」、「努力を要する状況と判断される生徒への指導の手立て」の各項目の1単位時間ごとの横の整合性を図る。

○1単位時間あたり、一つ、二つ程度が望ましい。

○「7 本時の指導 (6) 展開」(本時の展開)は、ここに示した指導と評価の計画をより詳細に、具体的に示すことになる。
○本時は、太枠で示すと分かりやすい。

- 国立教育政策研究所の参考資料に、様々な形式が示されているので、参考にする。
- A4判を横にして使い、別紙として示すことも考えられる。
- 1単位時間の中の各項目の横の整合性及び指導案全体としての「2 単元の目標」から「7 本時の指導」までの縦の整合性を図るようにする。

7 本時の指導

(1) 題目（題材名、または教材名）

○「6 単元の指導と評価の計画」との整合を図る。

(2) 目標（またはねらい）

○本時の目標（ねらい）をわかりやすく記述する。（ ）で評価の観点を記述する方法も考えられる。
生徒に提示するめあて（学習課題）及び本時の評価規準との整合性を図る。

(3) 学校課題（または研究主題）に関わる授業の視点

○本時において、学校課題（研究主題）との関連がある場合には、学校課題（研究主題）にどのように迫るのかを記述する。その際、課題解明の手立てや研究の内容に即して記述することが大切である。

(4) 人権教育の視点

○本時の目標（ねらい）、学習内容や指導方法と、「育てたい資質・能力等」との関わりを記述する。ここでの視点が、展開の「人権教育上の配慮」において具体的な記述となる。

(5) 生かしたい生徒

○各教科等で「人権に配慮した授業」を実践するためには、「人権教育との関連、人権教育の視点、人権教育上の配慮、生かしたい生徒」を適切に位置付けることが必要である。集団の中で疎外されたり、不適応を起こしたりしがちな生徒を、「配慮を要する生徒」と捉え、その実態を踏まえて意図的・計画的に適切な支援をしていくことや生徒のよさを捉え、指導に生かし伸ばしていくという積極的な観点から捉えることが求められる。

○「生かしたい生徒」の設定の仕方の例

- ①「人権教育の視点」として、本時の目標（ねらい）や学習内容、指導方法（学習形態など）が「育てたい資質・能力等」とどのように関連しているかについて捉える。
- ②「人権教育上の配慮」として「育てたい資質・能力等」を身に付けるための支援や配慮事項、学習指導における基底的指導に関わる配慮事項などを、学習内容、指導方法の両面について具体的に押さえる。
- ③本時の中で配慮したい生徒を「生かしたい生徒」として捉え、意図的に指導や支援を行う。

○平成19年度 芳賀の教育 Q&A集 人権教育「Q6 各教科等の授業において『生かしたい児童（生徒）』を設定する際、どのような点に留意すればよいか。」参照。

(6) 展開（次頁参照）

(7) その他

○学校課題や研究内容及び教科等の特性などを踏まえ、必要に応じて、板書計画、発問計画、場の設定、ワークシート（別紙）などの項立てをして、記述することも考えられる。

(6) 展開

【展開の例】

○教科の特徴が見えるようにする。(例えば、数学ならば必要な数値、式、図表、グラフなど含めて記述する。)

○形式については、A4横版で作成することも考えられる。

○TTの場合は、この欄をT1とT2に縦に区切り、役割を明確にして記述することも考えられる。なお、T1やT2以外の授業への参観者は、授業参観のマナーとして、生徒に指導・助言をしたり、ヒントを与えたりしないようにすることが望まれる。

○学習内容とは、この場面で指導すべき内容(ゴシック)であり、学習活動とは、この学習内容を具体的に理解するための活動や手立てである。

○指導上の留意点(太字)は教師の立場で記述する。

○学習活動(太字)は、生徒の立場で記述する。

◎学校課題との関係性や大権教育上の配慮

学習内容・学習活動	時間	形態	指導上の留意点等	資料	評価(評価方法)
○本時のめあて(学習課題)、学習内容、学習活動、指導上の留意点、評価(評価規準)等の横の整合性を図る。					
<p>1 本時のめあて(学習課題)を知る。</p> <p>【めあて】○○について○○ことを○○しよう。</p> <p>【学習内容】応急手当を適切に行うことによって～○○こと。</p> <p>発問1</p> <p>○○○～でしょうか。</p> <p>(予想される反応)</p> <p>・○○○○○</p> <p>・○○○○○</p> <p>・○○○○○</p> <p>説明1</p> <p>・○○○○○</p>	導入	一斉	<p>・本時のめあて(学習課題)を提示し、復唱させ、ノートに記入させる。</p> <p>○本時の「目標(ねらい)」を生徒に提示する際は、「めあて(学習課題)」として提示する。教師からの一方的な提示とならないように留意する。</p> <p>○一時間の授業(学習のまとめごと)のめあて(学習課題)を、</p> <p>①発達の段階に応じて分かりやすい言葉で示す。</p> <p>②板書や掲示をするなど、はっきりと示す。</p> <p>③教科の特質に応じて、「何が」、「どのように」、「どのくらい」でできればよいのかが分かるようにできるだけ具体的に示す。</p> <p>④示す方法や示すタイミングについても学習内容や学習活動などに応じて工夫する。その際、体験と関連付けたり、既習事項を想起させたりする。</p> <p>○中学校保健体育科の学習の例…学習指導要領やその解説に示された内容。</p> <p>○ここには以下のような内容について、授業の流れをイメージしながらできるだけ詳しく記述する。</p> <p>・授業の留意点、指示、説明、支援・指導の内容、及び「努力を要する状況と判断される生徒」への手立て</p> <p>・学習内容を理解するための学習活動についての、補足説明、教師側の留意点、つまづいている生徒へ講じる具体的な手立て、発展的学習の用意、指導上の留意点</p> <p>・教師の発問、指示、説明、予想される反応、それに対する対応・手立て(発問、指示、説明、予想される反応は、学習内容・学習活動の欄に記述してもよい。)</p> <p>○通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする生徒への配慮事項を記述する場合は、この欄に記入する。</p> <p>○本時の「目標(ねらい)」、「めあて(学習課題)」と「評価規準」との間に整合性を図る。</p> <p>○「6単元の指導と評価の計画」の評価規準とも整合性を図る。</p>		
<p>2 ○○について予想し、自分の考えを付箋紙に書き出して説明する。</p> <p>発問2・指示1</p> <p>○○は、～ですか。ブレインストーミングをして考えましょう。指示をします。まず、～。</p> <p>○本時のめあてに応じた振り返りを行わせる。</p>	展開	グループ	<p>・ブレインストーミングにより○○について予想させ、自分の考えを付箋紙に書き出して説明する。</p> <p>○必要に応じて、本時の目標(ねらい)を達成するために適切な言語活動を位置付け、思考力、判断力、表現力等を育む。</p> <p>・○○○の場合は、○○○するよう、○○○したり、○○○したり、○○○で考えるなどのヒントを与える。</p> <p>(手立て)</p> <p>・○○○の場合は、○○○するよう指示をする。</p>	<p>・掲示資料</p> <p>・付箋紙</p> <p>・模造紙</p> <p>・マジック</p> <p>・ノート</p>	<p>【評価規準】【思・判】</p> <p>・○○○～○○○。(観察・ノート)</p> <p>〔十分満足できる状況〕</p> <p>・○○○～○○○。(観察・ノート)</p> <p>〔努力を要する状況と判断される生徒への指導の手立て〕</p> <p>・○○○の場合は、○○○するよう指示をする。</p> <p>○「努力を要する状況と判断される生徒」への指導の手立てについては、「指導上の留意点」の欄に示すことも考えられる。</p>
<p>5 本時の学習を振り返る</p> <p>・本時の学習をまとめる。</p> <p>・ノートに自己評価、相互評価をし、発表する。</p> <p>・教師の話を聞く。</p>	まとめ	個人	<p>○教師による評価、自己評価、相互評価など。</p> <p>○本時の目標(ねらい)、めあて(学習課題)と照らし合わせて、教師による評価、自己評価、相互評価等で振り返りをさせる。記号化による簡易的な評価に偏ることなく、文章による記述も取り入れ、目標(ねらい)、めあて(学習課題)の達成具合を更に細かに見取るなど、方法を工夫し、次の指導に生かせるものにする。</p> <p>○教科によっては、まとめの前に評価問題等を解かせることもある。</p>		

【参考資料】

・「芳賀の子ども学力向上プラン」

・「新学習指導要領に基づく評価規準設定のための参考資料(中学校編)」

・「評価規準の作成のための参考資料、評価方法等の工夫改善のための参考資料」(中学校)

H26.2 芳賀教育事務所・芳広教委

H23.6、H23.12 県教委

H23.11 国立教育政策研究所